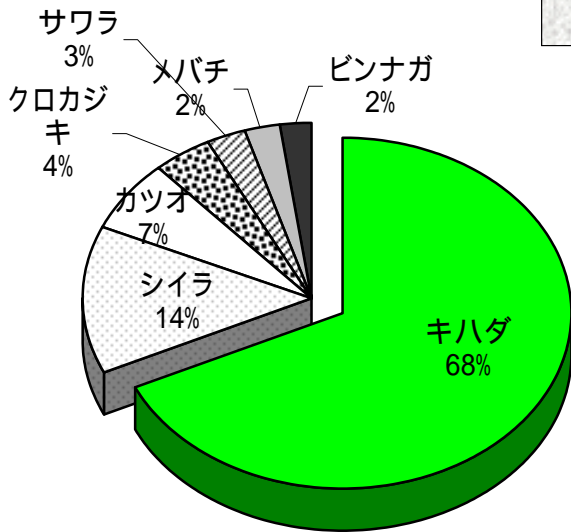
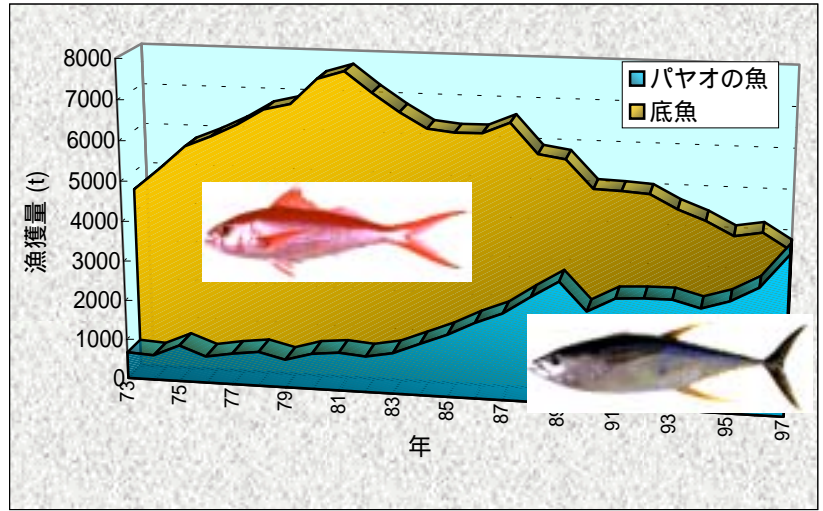


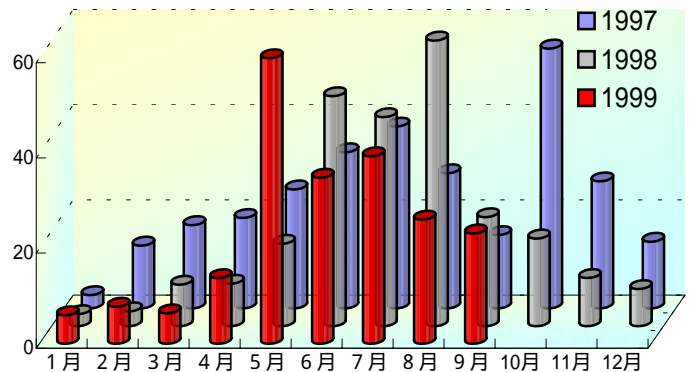
右の図は、沖縄農林水産統計年報(沖縄総合の底魚(マチ類、タイ類、ハタ類、ブダイ類、アイゴ類、アジ類)とパヤオ漁業(曳縄で代表)の漁獲量を示しています。底魚の漁獲量は、1981年を境に急激に減少しています。これと対照的に、パヤオ漁業の漁獲量は増加し、1997年には底魚の漁獲量を越えました。



左の図は、過去10年間の県内12漁協におけるパヤオ漁獲物の構成です。キハダが圧倒的に多く、全体の68%を占めています。

下の図は、本島南部4漁協のキハダ(10kg以上)の月間漁獲量です。1997年は10月に、1998年は例年漁獲の減る8月に、今年(1999年)は5月に漁獲が多かったです。

キハダ月別漁獲量の推移



下の図は、本島南部のある漁協でのキハダ(10kg以上)月間漁獲量推移です。漁獲量は季節変動とともに大きく年変動しています。これは沖縄へのキハダの来遊量が海流や水温等海洋環境の影響を受けているためと思われます。漁初めの4月や5月に15kg程度のキハダの漁獲量が多いと、その年の漁獲量も多くなる傾向があります。

